

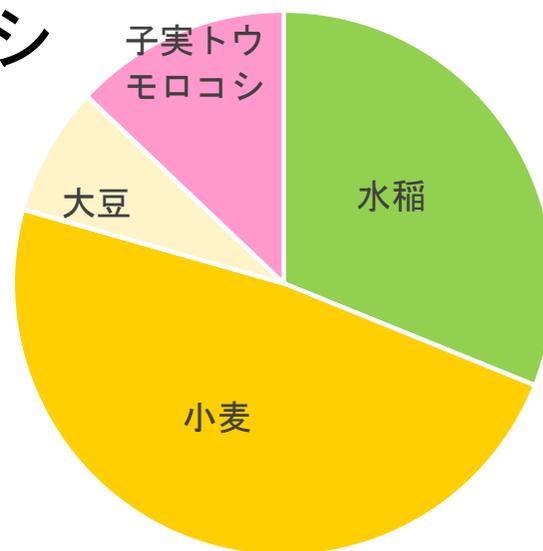


盛川農場
子実用トウモロコシ
9年間の変遷

2021.11.22

有限会社盛川農場
代表 盛川周祐

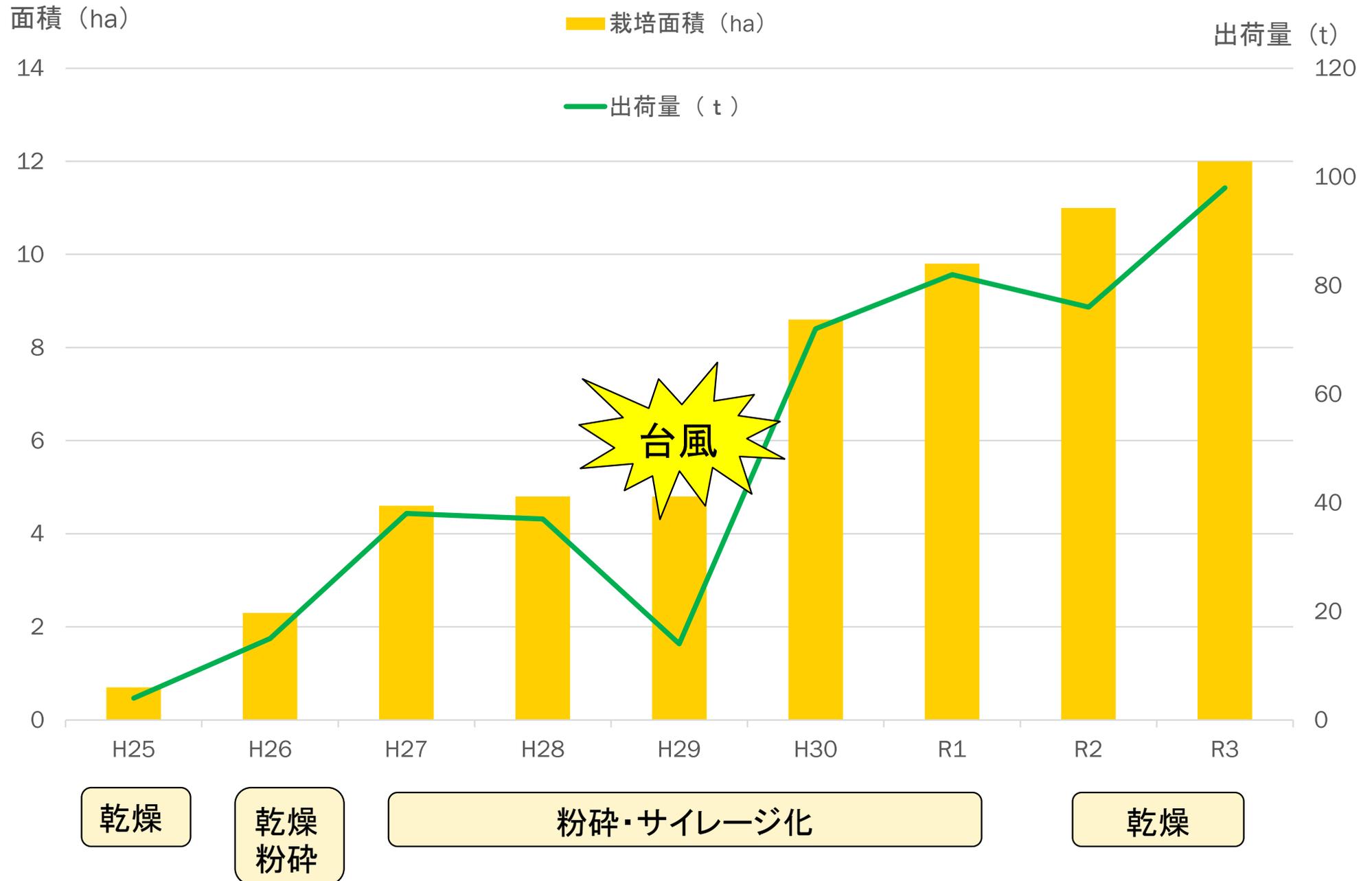
- 岩手県花巻市
- 平成17年に法人設立
- 昭和49年、2.3haからスタート
- 家族5人＋臨時雇用（小麦運搬）
- 現在経営面積92haで
水稲、小麦、大豆、
子実トウモロコシ
を生産



子実トウモロコシに取り組んだ理由

- きっかけは雑誌「農業経営者」の昆編集長のすすめ
- 輪作体系の品目数を増やすため
- 小麦や大豆への増収効果
- 一品目の単位面積当たりの収入より、労働力を含め経営全体での収支を優先
- 地元養豚経営者 高源精麦白金豚との出会い

H25	0.7ha	子実トウモロコシ栽培スタート。販売先、コンバイン未定のまま播種。コンバインのヘッドロスが多い印象。コンバインは収穫直前に届き、間に合う。全量乾燥機にて乾燥。
H26	2.3ha	2種類の品種（125日、118日）を栽培。刈取実演会を開催。乾燥ラインに夾雑物除去の為、粗選別機を導入。全量乾燥で出荷、製粉業者で粉碎後、餌に。
H27	4.6ha	品種のテスト比較圃場を設置。115日タイプをメインに。熊対策として電牧を設置。収穫後は乾燥せず、HMSCで出荷に切り替え。
H28	4.8ha	収穫後の調整作業（粗選、粉碎、袋詰め）を、一か所に集約して共同作業。一部乾燥した分も粉碎して出荷。
H29	4.8ha	6葉期頃に追肥N5kg後、カルチベータで中耕。台風18号による茎折れ、倒伏被害があり、ひどい圃場はハーベスタにて青刈りサイレージ。コーンヘッダーテスト、粉碎フレコン後ラップ
H30	8.6ha	コーンヘッダー購入で本格的に取り組み、面積拡大 生産者が増え「花卷子実コーン組合」を設立、一部共同作業、機械の共同利用
R1	9.9ha	サイレージ作業の人員削減の為、梱包作業を外部に委託
R2	11ha	コロナ禍により梱包外注出来ず、急遽乾燥・フレコン出荷に切り替え。モバイルドライヤーテスト使用。
R3	12ha	・品種の変更 ・追肥による増収



- 栽培技術の取得
 - ・ ・ やればできる！
- 作業時期の分散
 - ・ ・ 収穫したい時期に合う品種の選定など
- 専用機械
 - ・ ・ 特にコンバイン
- 乾燥調整、貯蔵、販売
 - ・ ・ どこに、どんな形で？

4月
～
5月



堆肥散布

5月中旬
～
5月下旬



耕起



整地



元肥散布



播種床造成



播種



鎮圧

除草剤散布
(土壌処理)

6月下旬
除草剤散布
(茎葉処理)

生育中

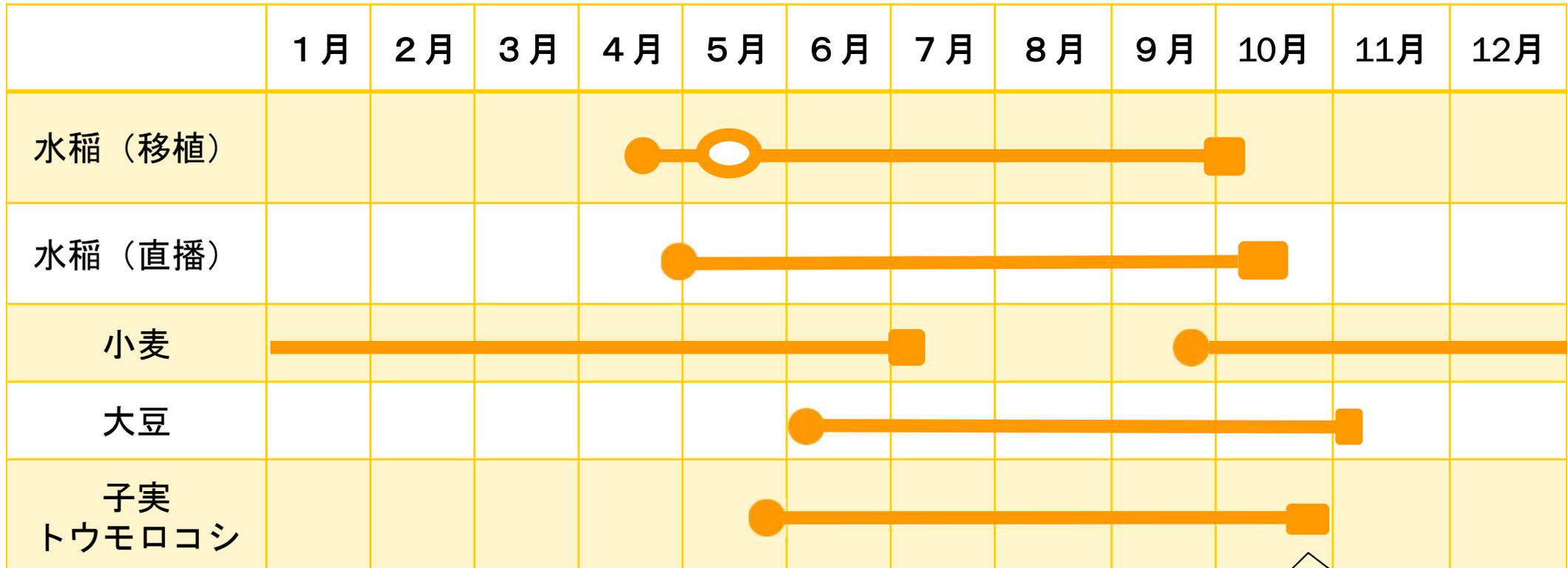


10月
下旬



収穫

● 播種 ■ 収穫



稲刈り後、大豆収穫前に
コーン刈取り

➡ 播種作業・収穫作業に合わせて品種を選定

<グレイン・ヘッダー>

- 主に小麦に使用
- 軽量でどの作物にも汎用性がある。
- コーンの場合、茎、葉、子実とも選別部に入る為、馬力ロス、選別ロスが出る。
- 草丈3mほどのコーンの場合、リールでなぎ倒してしまう。
- 倒伏した場合、刈取が困難

<メイズ・ヘッダー（スナッパーヘッダー）>

- 専用ヘッダーで子実のみを収穫する為、選別部の負担が少なく、高速作業が出来る。
- 構造が複雑で重い。
- 台風等で倒伏しても、収穫可能
- 高価

< 乾燥 >

- 刈取時 25%前後を米麦乾燥機で13%に乾燥
- 人手がかからない
- 保管施設が必要
- モバイルドライヤー

< H M S C >

- 刈取後すぐの対応が必要
- 粉砕機等の設備機械が新たに必要
- 粉砕作業に5・6人の人手がいる。
- 屋外保管出来るので、室内の保管貯蔵施設がいらぬ
- フレコンラップ、マルチコンパクターの利用

	調整方法		コンバイン刈取り部	
	乾燥機	粉碎・サイレージ	グレインヘッダー	メイズヘッダー
H25	○		○	
H26	○		○	
H27		○	○	
H28		○	○	
H29		○		○
H30		○		○
R1		○		○
R2	+モバイル			○
R3	+モバイル			○



Orkel マルチコンパクター



トラクター動力を利用した屋外移動用乾燥機 能力13トン





- 乾燥、加工、貯蔵、運搬などのコストを減らしたい
- 水稲、大豆の収穫作業との調整
- 米、麦、大豆と比較しての収益性の向上
- 台風被害、鳥獣害などへの対処